



正循環夜勤シフト ついでに存じですか

副看護部長 酒井富喜子

京都民医連中央病院は、2012年6月に病棟の夜勤を正循環シフトに移行しました。移行前は、日勤↓深夜↓準夜という逆循環シフトを採用し、現在も多くの病院がこのシフトをとっています。また、勤務交代の回数を減らし、休日をしつかりとるために二交代制をとる病院も増えています。

しかし、労働科学研究所佐々木司氏のデータでは、長時間の夜勤労働は、夜間の照明による乳ガンのリスクを高めることや、朝方は酒気帯び運転に近いレベルの状況で、安全性への影響が懸念されること、また人間は「時間的な存在」(睡眠を何時間とったか)だけでなく「時刻的な存在」(睡眠をいつとったか)であり、夜7時付近は睡眠禁止帯といわれており、日勤↓深夜の仮眠時間はこの禁止帯に無理に寝なければならぬ状況を作り出していると報告されています。

看護環境も30年や40年前とは大きく変化しています。在院日数の短縮、高回転、認知症を抱えながら治療を受けておられる患者さんも少なくありません。限られた夜勤体制で仮眠はおろか休憩もとれない実態もあります。

京都民医連中央病院は、この日勤↓深夜の勤務をなくし、日勤↓準夜↓休み↓深夜の正循環シフト(時計まわり)を採用し、移行後は「夜勤明けの頭が重い感じや、めまいが軽減した」等の声が出されています。日勤を終え、夕食を済ませ仮眠を

取る間もなく深夜に出かけていたことを思えば、体に優しい勤務であるといえます。反面、準夜と深夜の間の休みが「休んだ気がしない」等の意見もあり、今後の課題もあります。

看護師が健康に、そして安全な医療が提供できるように夜勤労働の改善をめざし、働き続けられる職場づくりと看護師確保に、微力ではありますが邁進する所存です。

介護福祉事業建設協力金に ご協力よろしく願います

組織社保部長 田中賢二

新リーフレット「クイズでわかる! 京都保健会」に、たくさんのお褒めの声を頂きありがとうございます。今年度から取り組んでいる「介護福祉事業建設協力金」の目的をクイズ形式で紹介しています。

協力は、今年と来年で5億円を目標に、上京病院跡地のサービス付高齢者住宅、あやべ協立診療所の全面改修等に充てることとしています。各事業内容や建設が見えてくるのはこれから、まだまだ協力金は広がっていませんが、今年度事業

の説明には必ず付け足し、取り組みを進めて頂きますようよろしく願います。また、保健会協同基金は引き続き募集していますので、あわせて、ご協力をお願いします。



友の会 活動家紹介

朱雀健康友の会 役員
能勢 勝さん



朱雀健康友の会 役員として、いつでも、どんな時でも地域の先頭に立ち、朱雀診療所周辺地域のリーダー、時には良き相談者。特に防災関係では、消

防署の職員も一目置く存在として頑張っておられます。数年前までは、中・右京健康友の会の役員も兼ね、朱雀健康友の会と「二足のわらじ」で奮闘され、日々「学び行動し、連帯し育ちあう」を実践してもらっています。

反核平和委員会のメンバーでもあり、今年の「被災60年3・11ピキニデー」にも参加していただき、その報告会での感想が強く印象に残っています。「ピキニデー60年、自衛隊60年の今年、一人一人が、将来に何を次の世代に遺せるかを真剣に考え、自分の責任を果たすことが求められている」と話され、これからも共に「学び行動し、連帯し育ちあう」を二層強く思いました。(朱雀診療所事務長 宮村真弘)